



公益財団法人 School Aid Japan

バングラデシュ通信

2014年5月号 No. 17



難解なゴミ問題と、ナラヤンクル村の挑戦

「きれいな村、ナラヤンクル」を目標に、Narayankul Dream Model High School(NDMHS)とナラヤンクル小学校の子どもたちが中心となり、地域の清掃活動をはじめました。

バングラデシュには、写真のように道端にゴミが放置されている場所が多く見られます。人々があちらこちらにゴミを捨てる事と、廃棄物処理施設や回収業者が圧倒的に少ない事がその主な原因です。このような状況はナラヤンクル村も例外ではありません。



朝ゴミ拾いをする NDMHS 生徒



バングラデシュのゴミ溜め“ダズミン”

各家庭や店舗で出たゴミは、ダズミンと呼ばれる、ゴミ溜めに集められ焼却されますが、カラスや野良犬、または風雨により、ダズミンが荒れ、辺り一面がゴミだらけになります。

また、次ページ写真のように農場のすぐそばにゴミが投棄・焼却されているケースでは、土壌汚染を引き起こしています。

資源回収業者はまだまだ少ない上、回収できる品目も、ペットボトルやきれいなビニール製品数点に限られており、「分別&再利用」という発想はダッカでも一部でしか存在しません。

そのため、「燃やせるごみ」「燃やせないゴミ」等々の区別なしに焼却されています。

このようなゴミ集積場付近の農場で栽培されたお米や野菜が市場に出回ってしまっているのが現状です。



道端のゴミを燃やしています



ゴミを漁る野良犬



農場のそばに投棄されたゴミ



ゴミ拾い完了！

これらの問題に対し、「きれいな村、ナラヤンクル」という目標を立てたナラヤンクルの子どもたちは、現在ゴミ拾いに加え「分別処理」に注力しています。

「きれいな状態」とは「ゴミが捨てられるべき場所に捨てられ、適切に処理されている状態」と定義しています。分別し、資源として再利用できるゴミは、リサイクル業者に持って行く。再利用できないものは焼却する。

この活動を広め、地域で一体となって「きれいなナラヤンクル村」をつくっていくことで、生徒達の学びとしたいと思います。